

『教育』の真髄 ～ 『役割意識 & 使命感の自覚』 ～

2024年5月21日 新渡戸稲造記念センターから順天堂大学 保険医療学部 理学療法学科での講義『病理学概論』に向かった。教科書『カラーで学べる病理学』

を音読しながら約120名の学生と【『炎症：『急性炎症のしくみ』 & 『急性炎症の種類』 & 『急性炎症の運命』 & 『慢性炎症のしくみ』】を学習した。真摯な学生の姿勢には、大いに感動した。

5月22日は、順天堂大学 保険医療学部 診療放射線学科で『病理学総論』と『がん医療科学』の2コマの授業に赴いた。『病理学総論』では、『カラーで学べる病理学』の教科書を音読しながら【循環障害 & 炎症】を学んだ。『がん医療科学』では、筆者の『がん細胞から学んだ生き方 ～「ほっとけ 気にするな」のがん哲学』（へるす出版）を用いて『がん細胞が語る人間社会』&『「がん哲学」での「言葉の処方箋」』の箇所を音読しながら進めた。授業とは『小さなことに、大きな愛を込め 高度な専門知識の習得の交流の場である』を実感する日々である。

『役割意識 & 使命感の自覚 と 練られた品性と綽々たる余裕』は『教育』の真髄であろう！『潜在的な需要の発掘』と『問題の設定』を提示し、『他人の苦痛に対する思いやり』は、『教育の根本』であり、『なすべきことをなそうとする愛 ～ 内から湧き出るjoy ～』ではないでしょうか！生きる目的を持ち、自分の居場所を見出し、自身の人生を大切に生きることができる場所。そんな営みをサポートするのが『教育』には不可欠であることを痛感する日々である。

【『最も剛毅なる者は最も柔和なる者であり、愛ある者は勇敢なる者である』とは、『高き自由の精神』を持って医療に従事する者の普遍的な真理であろう。『他人の苦痛に対する思いやり』は、医療の根本である。】

【教師の2つの心得】

- (1) 『学問的、科学的な知識』
- (2) 『人間的な責任』